２０２４年　Winter　　No.１６０

みくに

〈今年もよろしくお願いします！〉

２０２４年 標語聖句

求めなさい。そうすれば、与えられる。
探しなさい。そうすれば、見つかる。
門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。
だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。

マタイによる福音書 7章7～8節

社会福祉法人　みくに園
障害者支援施設　みくに成人寮
TEL：(0879) 68-3104　FAX：(0879) 68-3920
〒761-4661　香川県小豆郡土庄町豊島家浦902番地1
HP：http://www.teshimamikunien.com

自助の強化

施設長　　松田　卓也

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様もご存じの通り、元日にマグニチュード７．６、震度７の非常に激しい揺れを観測した令和６年能登半島地震が発生しました。震度７の大地震は２０１８年の北海道胆振東部地震以来だそうです。

介護施設におけるＢＣＰ（事業継続計画）の策定が２０２４年３月末までに義務化されます。ＢＣＰとは、自然災害や感染症などの緊急事態に遭遇した場合に事業の継続や早期復旧を図るための計画です。これは、施設が直面する可能性のあるリスクを予測し、それに対する対策を事前に準備しておくことで、事業の中断を最小限に抑えることを目指すものです。

今回発生した能登半島地震の情報をテレビやネットで収集していて、私は、自分たちにもできる自助をもっと強化しなければならないと強く感じました。

防災の三助として自助・共助・公助があります。自助とは「自分の身は自分で守る（家族）」、共助とは「被災者同士助け合う（近隣）」、公助とは「行政の支援を受ける（行政）」ことです。自助を強化することで、私たち職員が無事でいることが前提にあって、はじめてＢＣＰが運用できるのです。自助ができなければ共助も機能しません。豊島への公助は高松などの都市部に比べ、遅れる可能性が高いと思われます。

自助や共助の在り方を見直し、災害発生時には近隣の方々と助け合い、被害を最小限にしなければなりません。

自分の身は自分で守るために今すぐ私たちにできることは、家具や家電の転倒防止、ガラスの飛散防止、防災バッグの準備、近隣の防災マップや避難場所の確認などたくさんあります。

今後、一人ひとりの職員が自助を強化し、利用者さんの命や生活を守るために災害への対応力を高めていこうと考えています。

最後になりましたが、令和６年能登半島地震の災害によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、一日も早く日常生活に戻れるようにと願っています。

みくにキッチン

～新たな門出～

「みくにキッチン」とは、厨房主催でイベントなどを行う時に使う名前である。新型コロナの影響で行事やイベントが中止となって数年「みくにキッチン」という名前を使う機会が無かった。

そんな中、頼もしいスタッフがやってきた。その名は「坂本さん」。小豆島の名だたる民宿や居酒屋で腕を磨いてきた料理人だ。坂本さんの手にかかれば、ケの日の食事もハレの日のように美しい。

そんな坂本さんに腕を揮ってもらおうと、月に一度「坂本食堂」の日を設けた。坂本さんの考案メニューで手料理をふるまう日である。家庭的な料理から始まり、回を重ねるごとに珍しい献立が一品また一品と増えていく。今月は、心躍る異国の響きを感じる「ビーフストロガノフ」。

「坂本食堂」を心待ちにする人達の声は、料理を作る楽しさや面白さを思い起こさせてくれた。そして、利用者さんの「おいしかった」の一言は、何とも言えない達成感で心が温かいもので満たされる。

新しい年を迎え、厨房スタッフ一丸となって新生「みくにキッチン」をオープンさせたい。

～レジェンド降臨～

２０２３年１１月のある日、長年みくに園の厨房を支えてくださったレジェンド６人が集結した。４年前の故髙田久初代理事長を偲ぶ会の時、髙田安司前理事長が「光子さんの作ったコロッケが食べたい」とおっしゃった一言が忘れられず、この度実現する運びとなった。

皆さん、厨房から長年離れており、最初は不安そうな表情だったが、いざ厨房に入ると、コロッケ、酢のもの、かきまぜや呉汁をあっという間に作り上げた。昔を彷彿とさせる会話のキャッチボールと共に、現役かと見まごう手際の良さに驚いた。

大勢で美味しい手料理を囲む賑やかな食事タイム。何年ぶりかの利用者さんとのご対面に目を潤ませているレジェンドと利用者さんの姿に、感極まって私達までもらい泣きした。

懐かしい人達との再会に「来てよかった」と最後は笑顔で帰路につかれた。

きらりと光るレジェンド達の後ろ姿に私たちの目指す姿はこれだと思った。

光子さんのコロッケ、豊島の郷土料理のかきまぜご飯と呉汁、懐かしのフルーツポンチです。利用者さんや職員からも「また、食べたい！」と大好評でした。

みくにカフェ　オープン！！

１２月のある日、少し早いクリスマスプレゼントとして、高齢者棟でみくにカフェをオープンしました。プリンやドーナツ、サンドウイッチなど色々な種類のスイーツを準備し、淹れたてのコーヒーの香りはカフェの雰囲気を盛り上げます。職員はキャップを被りカフェの店員に扮しました。

利用者さんは、たくさんのスイーツを目の前にして、じっくりと考えながら注文していました。また、会話の難しい利用者さんも、イラスト入りのメニューにすることで、指差しで選ぶことができました。注文した品は自分で受け取り、慎重に自分の席に運びます。自分で選んだスイーツと飲み物は一段と美味しく感じられたのではないでしょうか。

「美味しかったよ！」「また、してね！」の利用者さんの弾む声を聞き、とても嬉しくなりました。これからも利用者さんの楽しみや笑顔の機会が増えるように、さまざまなイベントや行事を計画したいと考えています。

＜古川　記＞

島外への買い物

コロナ前は普通に行っていた島外への買い物。利用者さんから要望があり、久しぶりに出掛けました。今回の買い物のメンバーは一般棟の利用者さん２名と高齢者棟の利用者さん１名です。事前に利用者さんと何を買いたいか相談し、色々なお店に行けるようにと計画を立てました。３人のお目当ては、洋服とお菓子です。洋服はたくさんの中から自分の気に入ったデザインや色を選び、お菓子も島内では買えないお菓子をチョイスしました。

昼食は丸亀製麺に行き、各自が好きなうどんや天ぷらを注文しました。少し寒かったので熱々のうどんをすると、３人の表情が自然とほころびました。

買い物からの帰り道、３人が歩く姿は、まるでビートルズのアルバム「アビイ・ロード」のジャケットのようでかっこよかったです。

＜川下　記＞

みくにクリスマス会

１年の大イベントのひとつ、クリスマスがみくに園にもやってきました！

１ヵ月程前から施設内がツリーや飾りでクリスマス一色になり、利用者さんはもちろん私たち職員もワクワクしていました。

そして迎えたクリスマス会当日。礼拝では香川豊島教会の福田牧師からのクリスマスメッセージに心が癒され、全員で讃美歌を歌いました。食事会では厨房スタッフが腕を振るったローストビーフやカルパッチョなどの特別メニューに、笑顔が溢れていました。

午後からは待ちに待った祝会です。一般棟は職員も参加し、トーナメント制で紙コップ早重ね大会をしました。決勝戦は利用者さん同士の手先の器用さを活かした戦いになり、大盛り上がりでした。

高齢者棟は、ピアノに合わせてみんなでクリスマスソングを歌ったり、この日のために練習を重ねた音楽療法のメンバー達が鈴やタンブリン、和太鼓等の楽器演奏を披露してくれました。メンバーの３人は緊張しつつも誇らしい笑みを浮かべ、たくさんの拍手を貰って大満足の様子でした。最後は職員達が、みくに園の応援ソングである『みんな大事な仲間たち』のダンスと歌を披露しました。利用者さんの中には感動で泣いている方がおられ、「こんなにもクリスマス会を楽しみにしていたんだ。」と胸が熱くなりました。

次のクリスマスも、みんなと一緒に元気にお祝いができるようにと願っています。

＜佐藤　記＞

実践発表

１月１０日　令和５年度強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）の講師として、高齢者棟・副主任の古川由実が「自閉症者への取り組み」と題し、実践発表をしました。この発表は、これまで施設長の松田卓也が務めてきたものです。

内容は、自閉症者の入浴や食事の場面等の構造化、自立課題や手順書を用いた個々に対する支援などです。

今回の発表を基として、現状に満足することなく、今後更に質の高い支援ができるように、職員全員で理論を学び実践に取り組んでいきたいと思います。

＊行事＊

１月１１日　鏡開き（ぜんざい）
１月２６日　避難訓練（津波想定）
１月２９日　避難訓練（土砂災害想定）
１月２４日～２月７日　高松短期大学実習生受け入れ
２月３日　節分
２月１４日　バレンタインデー
３月３日　ひな祭り
３月　虐待防止研修（外部講師）
３月　避難訓練（火災想定・消防立ち会い）
４月　お花見

＊礼拝再開＊

昨年９月より、日本キリスト教団香川豊島教会の福田哲牧師による礼拝を再開しました。

感染対策として、一般棟と高齢者棟、別々に行っています。

＊表紙の年間標語聖句について＊

「求め、探し、門をたたきなさい」と神様が私達を招いてくださっています。

そして、「与えられ、見つかる、開かれる」と約束してくださっています。

困難な状況に遭った時も、自分が信じたものに向かって、諦めずに挑戦を続ける時、道は開かれるのです。

神様は、私達の心の声に耳を傾け、求めに応えてくださいます。

新しい年も、神様の愛に導かれて、自分の命を精一杯育んでいく日々にしたいものです。

編集後記

あけましておめでとうございます。みなさん、お正月はどのように過ごされましたか？

みくに園では久しぶりにお正月を自宅で過ごされた利用者さんもおられました。園で過ごされた利用者さんは、厨房スタッフによるお節やお雑煮等のご馳走を堪能しました。

今年も新たなことに挑戦する一年にしたいと思います。

職員一同よろしくお願いいたします。　〈片岡記〉

＊みくにだよりへのご意見をお待ちしています。

E-mail:kgk03317@nifty.com　FAX:0879-68-3920

みくにだより編集部：（160号　2024年1月発行）